

地域力が結ぶ「安心・安全のまちづくり」

先進的な防災活動の内容

六原学区自主防災会では、学区内の特性として少子高齢化、狭い道路や袋路地などが見られます。このような状況から、同学区における災害に強いまちづくりは、待ったなしの最重要課題です。これらの状況を具体的に改善するために次の取組を実施しました。

● 安心・安全マップの作成

学区内における防火、防災、防犯及び交通安全を主要なテーマとし、不安箇所を抽出して地図上に載せました。子ども、高齢者及び障害者の視点も考慮し、消火栓、一時避難場所、避難所などの防火防災情報、通行注意箇所、「こども110番の家」な

どの防犯、交通安全情報を掲載し、解消できれば削除できる手作り地図方式としました。これらの情報は随時変更されることから、2年ごとに見直して地図を更新し、全学区民に配布することで、高齢者、障害者、子どもなど災害弱者への見守りや巡回活動などで役立てています。

● 門灯をつける運動

学区内には、暗い箇所が多数あるため、放火防止や防犯上の問題点と認識し、街灯誘致をうたう前に、家の門灯でまず町を明るくしていく取組を学区民にチラシ等により協力を依頼しています。

防災マップの
作成



特記事項

- 学区内には縦割りの各種団体が存在しており、各種団体と横軸の連携を図り、小異を捨てて大同についてもらうことで、防火、防災及び防犯などの生活の基盤となる活動に同じ目線で参画してもらっています。
- 安心・安全マップには個人名(住宅地図レベル)を地図に載せるため、地図作成の趣旨を説明し、町内会長から現状の家屋配置図の提出をもらっています。

高齢者も安心 避難マップの作成

先進的な防災活動の内容

稚松学区自主防災会では、地域に住む高齢者らが地震や火災などの緊急時に慌てずに避難できるよう、住民の家と避難場所、避難時に家を出る時の手順や関係連絡先、消火器の設置場所などを記した詳細な地図を3年掛かりで作成し、全戸に配付しました。

稚松学区はJR京都駅に近く、約2,600人が住み、高齢者世帯の割合も40%近くになっています。マップには避難場所であ

否確認にも使用できるよう全戸の名前を記したほか、消火栓や非常ベルの位置も明示しています。

また、地域の役員や関係機関の連絡先を記載し、家族の連絡先が5人分記入できる欄も設けています。非常持出品も列挙し、取り乱していても地図を見れば、身を守るために必要な情報を確認できるようになっています。



特記事項

- 自主防災会の役員が学区の独居世帯を1年半にわたり訪問し、名前と家を確認して地図を作成しました。

また、配付した地図とは別に大きな手書きの地図を1枚作成し、緊急時に自主防災会の各役員が安否確認に活用する計画としています。

「西京極地域福祉防災マップ」の作成

先進的な防災活動の内容

西京極学区自主防災会では、「自分たちでできることは自分たちで行い、地域住民が皆で協力し合い、助け合って地域を良くしていこう!」を基本理念に毎年色々な活動を行っています。平成21年度は、その事業の一つとして、地域住民の方々に災害時のみならず普段でも活用してもらえるように、西京極社会福祉協議会と共同で「西京極地域福祉防災マップ」を作成し、各戸に配付しました。これは地域を東西2つに分割し、A3判、カラー刷り、ラミネート加工を

施し、水に濡れても大丈夫で破れない保存版になるようにしました。

また、「西京極地域福祉防災マップ」を縦・横120センチメートルに拡大したものを作成し、地域内の小学校、中学校をはじめスーパーや銀行等の事業所にもお願いし、誰もがいつでも活用できるよう現在20箇所に掲示していただいています。更にそのマップを地域住民が目にするによって、防災意識の高揚も図っています。

防災マップの作成



特記事項

- 「西京極地域福祉防災マップ」の作成に当たっては、地域の高齢者を見守ってこれた西京極社会福祉協議会と思いが一致したことから実現できたものであり、マップには、身体障害者用トイレやAED設置事業所等の許可を得て、地図上に明記しています。
- 特長として、井戸のある場所も所有者の許可を得て明記しました。この調査には、西京極社会福祉協議会の方々の多大なる協力があり、完成することができました。

これも「皆で協力し合い、助け合って地域を良くしていこう!」という基本理念に沿うものであり、これからも地域を良くしていくには各種団体がお互いに協力していくことが重要であると思います。